港湾振興便り

2024. 12
第211号

＊：＊

目　　次

＊：＊

1　ポートエッセイ　―　新潟港で「コンテナ全部開けちゃいました！」　―
～　日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長)　中原　八一　～

2　トピック

●紋別港　港町地区　屋根付き岸壁供用式典を開催
（紋別市　建設部　港湾課）

●「第20回ビーチライフふれあいフェスティバル in 阿字ヶ浦2024」が開催！
（関東地方整備局　鹿島港湾・空港整備事務所）

●蒲郡(がまごおり)市と連携した防災訓練を実施しました！
（中部地方整備局　三河港湾事務所）

●MINATO 天保山まつりが開催されました！
（近畿地方整備局　大阪港湾・空港整備事務所）

●室津港で釣り大会を開催！
（四国地方整備局　高知港湾・空港整備事務所）

●未来の担い手発掘！～　鹿屋市立田崎小学校みなと見学会　～
（九州地方整備局　志布志港湾事務所）

●全国初！作業船への陸上電力供給による二酸化炭素排出量削減効果を検証
～　志布志港におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けて　～
（九州地方整備局　志布志港湾事務所）

＊：＊

１　ポートエッセイ　―　新潟港で「コンテナ全部開けちゃいました！」 ―

～　日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長)　中原　八一　～

＊：＊

先般NHKで「コンテナ全部開けちゃいました!」という番組の中で、港でよく目にするコンテナを開け、積み荷から日本と世界のつながりを見ることをテーマに、本州日本海側で最大のコンテナ港湾の新潟港が取り上げられた。

番組で紹介されたようにコンテナは、中に何が入っているのか外からは全く分からないが、実に様々なものを積んでいる。コンテナの歴史は古く1950年代に登場した。それまで、海上輸送に関する荷役は人手のかかる非効率な貨物の積み下ろしが主流で、物流コストの大半は人件費と言われていたが、「コンテナ」という規格化された箱を使うことにより大量の雑貨物を安価に、安全に輸送することが可能となった。世界の経済活動の形を変えた「世紀のイノベーション」とも言われている。

コンテナ輸送の仕組みは現代のサプライチェーン構築において必要不可欠であり、私たちの暮らしを支える社会基盤といえる。現在ではサプライチェーンの可視化に向けて、リアルタイムで貨物の追跡やモニタリングが可能なスマートコンテナの導入が始まっているという。今後も、技術革新や環境への配慮が進む中で、輸送コンテナの役割はますます重要になるだろう。

また、番組後半では「世界一の雪対策！新潟港の冬」と題して、様々な降雪対策が取り上げられていた。その一つに融雪設備が紹介されていたが、これは地下水や海水を汲み上げてコンテナヤードに自動で散水し雪を融かす施設である。新潟には消雪パイプが敷設されている道路があり、地下水を散水し雪を融かす。そのコンテナターミナルバージョンであり、コンテナターミナルでは日本で唯一の施設である。機械除雪では除雪終了後に再度降り出した場合、再び除雪を行わなければならないが、この方式だと雪が降り続いても24時間昼夜を問わず稼働し雪を融かしてくれる。加えて雪の捨て場にも困らない。無くてはならない施設である。

地球温暖化などの影響により自然災害は激甚化し、大雪の頻度も高まっている。急激な大雪により交通障害が発生し、物流が停滞することもあるが、「決して物流を止めてはならない」という使命のもと、今冬も道路や港で除雪が行われる。関係者の皆様に感謝申し上げたい。

この冬の新潟の降雪予想は平年並みか平年より多いとのこと。穏やかな天候であってほしいのだが…。

最後に、会員の皆様には、本年も多大なるご支援、ご協力ありがとうございました。良い年を迎えられることを祈念いたします。

＊：＊

２ トピック

＊：＊

●紋別港 港町地区 屋根付き岸壁供用式典を開催

（紋別市 建設部 港湾課）

１１月１７日（日）、北海道オホーツク海の中央に位置する紋別港において、ホタテの輸出促進を目的とする屋根付き岸壁の供用式典を開催し、北海道選出の国会議員をはじめ関係者約７０人の方々にお集まり頂き供用を祝いました。

本施設は、道内6港湾管理者により策定された農水産物輸出促進計画に基づき2017年度から整備が始まり、今年１１月に全7棟の供用が開始されました。

屋根施設の完成により直射日光、鳥糞などによる水産物の品質低下を防ぐことが可能となった他、雨風を防ぐことで利用者の就労環境の改善も図られました。

港湾背後には、国際的な食品衛生管理「HACCP」認証を取得した加工場の立地が進むなど、政府目標である農林水産物・食品輸出額5兆円に貢献出来るよう官民連携して輸出拡大に取り組んでいきます。

屋根付き岸壁供用式典 テープカット

また、この屋根施設で水揚げされたホタテは国内においても関心が高く、みなとオアシスもんべつ運営協議会が参加しているみなとオアシスSea級グルメ全国大会で紋別のホタテを加工した「ホタテステーキ」が令和5年から2連覇を達成した他、ふるさと納税寄付件数は令和3年から3年連続全国1位を獲得しました。

屋根付き岸壁の水揚げ状況

Sea 級グルメ全国大会 in 境港

●「第20回ビーチライフふれあいフェスティバル in 阿字ヶ浦2024」が開催！

（関東地方整備局　鹿島港湾・空港整備事務所）

10月26日（土）、ひたちなか市阿字ヶ浦海岸において、「第20回ビーチライフふれあいフェスティバル in 阿字ヶ浦2024」が開催されました。

年間を通じた浜辺での賑わい創出を目指したビーチイベントで、平成17年に初めて開催され、今回が20回目になります。

当日は天候に恵まれ、参加者全員によるビーチクリーン（砂浜のゴミ拾い）を実施した後、ステージでのダンス披露、新感覚のビーチスポーツ、フレスコボールやビーチモルックの体験会や「ビーサン跳ばし選手権全国大会」の阿字ヶ浦海岸予選など様々なイベントが行われました。特に、今回は、イバフォルニア・マーケット（フリーマーケット、キッチンカーなど）、ビーチシネマや阿字ヶ浦海岸花火大会も同日に開催され、一日を通して、浜辺のあちらこちらで賑わっている様子を見ることができました。

当事務所では、茨城県港湾空港建設協会と連携し、港湾業務艇による茨城港常陸那珂港区の見学会及びミニ消波ブロック製作体験を行いました。

今後も地域の方々と連携し、年間を通じて阿字ヶ浦海岸を盛り上げていけるよう、協力してまいります。

会場全景

フレスコボール・ビーチモルック体験会
（日本ビーチ文化振興協会など）

ミニ消波ブロック製作体験
（茨城県港湾空港建設協会）

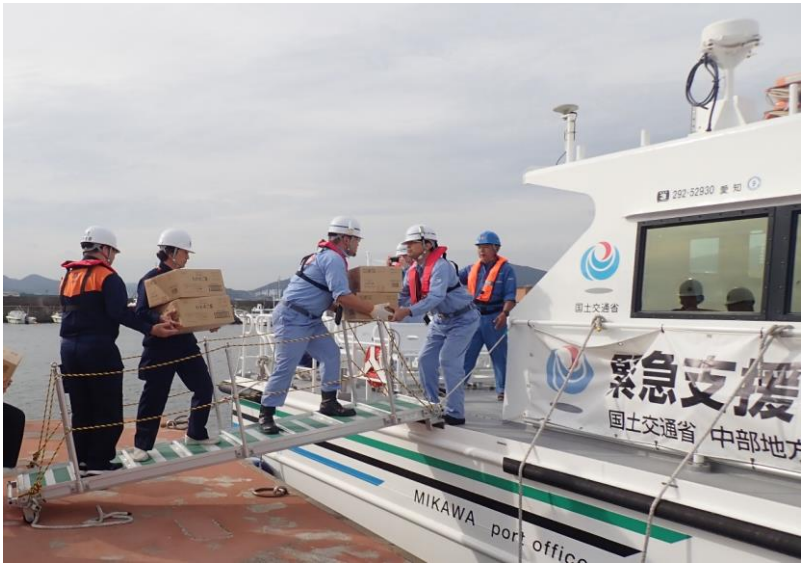
●蒲郡（がまごおり）市と連携した防災訓練を実施しました！

（中部地方整備局　三河港湾事務所）

　愛知県蒲郡市の西浦半島は、大規模災害による交通寸断で陸上からの支援物資が届かない恐れのある場所です。そのような場合に備え、令和6年10月16日（水）に、西浦半島にある倉舞港において、港湾管理者である蒲郡市と連携した防災訓練を実施しました。

　訓練はドローンによる港湾施設点検と、港湾業務艇「しおさい」を活用した緊急支援物資及び被災者の海上輸送を行い、被災時における港湾利用の有効性を確認しました。

ドローンによる港湾施設点検



緊急支援物資の積み込み

●MINATO 天保山まつりが開催されました！

（近畿地方整備局　大阪港湾・空港整備事務所）

令和6年11月9日～10日、大阪市港区のみなとオアシス大阪港・天保山エリアにて第 16 回 MINATO 天保山まつりが開催されました。

今年度は 2025 年大阪・関西万博 150 日前イベントにも位置付けられ、各種ステージイベントやフードエリア、万博スペシャルサポーター「帆船みらいへ」の寄港など好天のもと様々なイベントが行われました。

オープニングセレモニーの様子

万博スペシャルサポーター「帆船みらいへ」

●室津港で釣り大会を開催！

（四国地方整備局　高知港湾・空港整備事務所）

高知県室戸市の室津港にて11月9日（土）に（一社）室戸市観光協会主催で釣り大会が開催されました。

本大会は避難港整備事業で整備した作業ヤードを、広く地域振興にも活用するために地元関係者等で企画されているイベントです。令和2年開催から毎年開催されており、今年で 5 回目となりました。

当日は肌寒い早朝から約 31 名が参加し、市長の「作業ヤードを使って、地域の皆さんに楽しんでいただきながら、防波堤整備を進めていきたい」との挨拶の後、道具を持って、それぞれ釣りポイントに移動しスタートしました。魚が釣れると、周囲で「おお！」という歓声が上がったり、親子で参加されている方は子供に教えながら釣りをしていたりと、それぞれ楽しみながら釣りをされていました。

なお、当事務所においては港湾施設の利活用の観点から、大会の後援として名を連ねており、本大会においてはパネル展として須崎港におけるブルーカーボンの取り組み事例について紹介しました。

集合写真

ブルーカーボンパネル展示の様子

釣り大会の様子

釣果の様子

●未来の担い手発掘！～ 鹿屋市立田崎小学校みなと見学会 ～

（九州地方整備局 志布志港湾事務所）

令和6年11月22日（金）に鹿屋市立田崎小学校の児童104名のみなと見学会を開催しました。

見学会は、入省1～5年目の若手職員を中心に企画やロジの作成、現地での説明等を行いました。児童や先生のみなさんには、港湾の重要性についてのみなと説明、原木輸出日本一を誇る外港地区原木ヤードや、新若浜地区国際コンテナターミナル、若浜地区サイロ・飼料工場群の荷役作業を見学して頂きました。

また、（株）商船三井さんふらわあ様のご協力の元、「さんふらわあ さつま」の船内・デッキを見学し大型船舶の迫力を実際に肌で感じて頂きました。

児童の中には、みなと見学会を通して、「将来コンテナターミナルで働きたい。」や「大きくなったらさんふらわあに乗ってみたい。」などの感想がありました。

104名という大勢の小学生が参加するみなと見学会のため、事務所職員総勢 17 名が役割をもって対応しました。

今後も多くの方々に志布志港だけでなく港湾の仕事に興味を持って頂けるよう、PR 活動を行って参ります。

●全国初！作業船への陸上電力供給による二酸化炭素排出量削減効果を検証

～ 志布志港におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けて ～

（九州地方整備局 志布志港湾事務所）

令和6年10月10日から志布志港のケーソン製作工事において、全国で初めて作業船への陸上電力供給による二酸化炭素排出量削減に向けた試行的取組を実施しています。

港湾工事では作業船を使用した海上作業が必要であり、港湾工事から排出される二酸化炭素の削減を図る上で、作業船の二酸化炭素排出量削減に取り組むことが重要です。

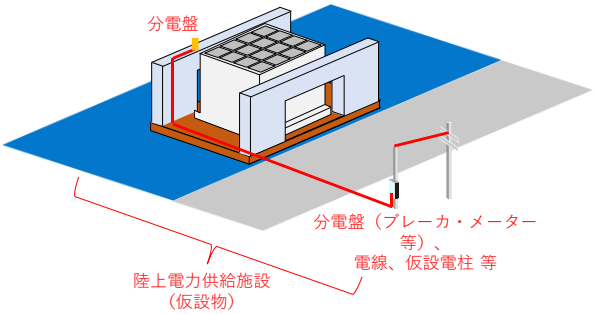
本試行では陸上電力供給のために分電盤（ブレーカー・メーター等）と電線等を仮設しました。作業船（フローティングドック）の発動発電機の燃料消費量削減のため、仮設した陸上電力供給設備から作業船の係留時における船内環境維持のための電力※を供給することで、船内発電機の燃料消費量削減に伴う二酸化炭素削減効果を検証します。

※本試行工事では、清水ポンプ、コンセント、照明などに使用する電力を陸上電力供給設備から供給します。

試行工事場所（志布志港）

陸上電力供給設備（分電盤）

作業船（フローティングドック）



陸上電力イメージ図

＊：＊：＊： 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 ：＊：＊：＊＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002 港区愛宕1-3-4
TEL：03-5776-0630 FAX：03-5776-0631
e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：＊